

## 令和4年度 第1回依存症治療拠点機関研修「依存症とうつ、自殺」の実施報告

地域連携室 中谷祐子

令和4年10月14日(金)、令和4年度第1回依存症治療拠点機関研修「依存症とうつ、自殺」を実施いたしました。今年度もZoom研修で国立精神・神経医療研究センターの松本俊彦先生にご講演いただき、約120名の方に参加していただきました。松本俊彦先生による研修は3回目となり、今回もとても実りのある研修となりました。

アルコール依存症は、男女比でいうと圧倒的に男性が多く、自殺既遂者の21%はアルコールの問題を抱え、休肝日はほとんどなく飲酒し、その量も中ジョッキ4杯程度の目安であることが講演の中でありました。目の前の当事者でなくても晩酌をする人であれば、我々が飲んでいる量と大きくかけ離れていない状況で、支援者として講演を聴く場面と自身の生活に置き換えて聴く場面とが私自身にもありました。精神的に追い詰められたときの飲酒が依存症にも繋がりやすいということ、依存症になれば、間接的に家族や社会から孤立させ、うつ病を難治化しやすいという内容を改めて聴き、自殺のリスクとの関連を意識することの大切さと生活の質に視点をおき、明日からの支援の活力をいただいた貴重な講演でした。